

## 『都市の経済学 小テスト No. 3』

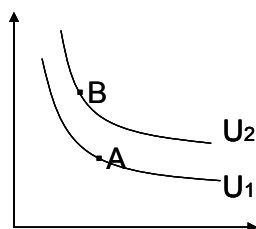
以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、問題の解答番号に入る数値または選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。

※で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

0. あなたの問題用紙番号は1番です。1に①をマークしなさい。

### 問1. 無差別曲線について

- 1.1. 無差別曲線とは、ある個人の2 (①比較優位、②公共性、③満足度、④外部性、) を表す。
- 1.2. 同じ無差別曲線上にある各財の組み合わせを消費することで得られる効用水準は3 (①同じである、②異なっている、③どちらとも言えない)。
- 1.3. ある個人の無差別曲線が交わることは4 (①ある、②ない、③時々ある、④その他)。
- 1.4. 下記の図はある個人の2つの無差別曲線を表している。この個人の効用は5 (① $U_1$ の方が大きい、② $U_2$ の方が大きい、③ $U_1$ と $U_2$ で同じ効用水準である、④どちらとも言えない)。



- 1.5. 同一の無差別曲線上にあるとは、一方の財の消費を増加させるとき、他方の財の消費を6 (①増加させる、②減少させる、③変化させない) ことで等しい満足度を実現していることを表している。
- 1.6. 無差別曲線では、財と財との交換比率の違いによって、ある個人がどちらの財をより重視しているかを表現することが出来る。レジュメ2の9頁の無差別曲線を比べると、広い住宅を消費する(=居住する)ことを重視しているのは7 (①A君、②Bサン) である。
- 1.7. 問1.6.の答えは、合成財の消費を増加するときに、諦めることのできる住宅の広さが8 (①多いこと、②少ないこと、③等しいこと) を根拠にしている。

### 問2. 予算制約線について

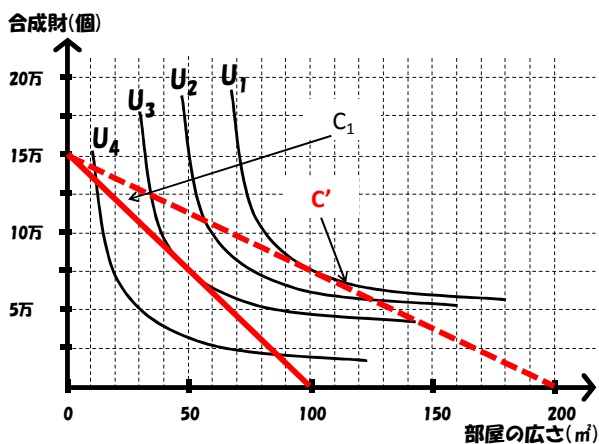
- 2.1. ある人の所得が30万円/月、合成財価格が1円/個、家賃価格が4000円/㎡であるとする。この時、この人の予算制約線はどうか正しいものを選んで9に解答しなさい。ただし、  
(①  $Q_r=30万 - 4000Q_c$ 、②  $Q_c=30万 - 4000Q_r$ 、③  $Q_r=30万+4000Q_c$ 、④  $Q_c=30万+4000Q_r$ )
- 2.2. 上記の場合、予算制約線を図に書いたならば縦軸との交点、横軸との交点はそれぞれどうなるか、縦軸を  $Q_c$  (合成財の数量)、横軸を  $Q_r$  (住宅サービス (㎡)) として以下の選択肢から選びなさい。ただし、(100、50万) は、100㎡の住宅サービスの消費と50万個の合成財の消費を表す。

横軸の交点 **10** (① (0, 0), ② (75, 0), ③ (0, 75), ④ (30万, 0), ⑤ (0, 30万), ⑥その他)  
 縦軸の交点 **11** (① (0, 0), ② (75, 0), ③ (0, 75), ④ (30万, 0), ⑤ (0, 30万), ⑥その他)

2.3. ある人の予算制約線は図1の  $C_1$  であるとする。このとき、この人の予算総額は **12** (①100、②200、③3000、④3万、⑤10万、⑥15万) 円である。また、この人が直面している賃貸市場では  $1\text{ m}^2$  あたりの家賃は **13** (①100、②200、③1500、④3000、⑤15万、⑥30万) 円である。

2.4. 予算制約線上の全ての財の組合せは、購入することが **14** (①可能、②不可能、③不明) である。

図1. 無差別曲線と予算制約線



### 問3. 最適な消費について

3.1. 最適な消費をしているとき、予算制約線と無差別曲線は **15** (①交わらない、②1点で接する、③2点以上で交わる、④その他)。

3.2. 図1で予算制約線が  $C_1$  のとき、達成できる最適な効用水準は無差別曲線 **16** (①  $U_1$ 、②  $U_2$ 、③  $U_3$ 、④  $U_4$ ) である。

3.3. 3.2の問題で、お金が余ってしまうために選ぶことのない無差別曲線は **17** (①  $U_1$ 、②  $U_2$ 、③  $U_3$ 、④  $U_4$ 、⑤  $U_1$  と  $U_2$ 、⑥その他) である。

3.4. 図1において、家賃水準が変化したことによって予算制約線が  $C_1$  から  $C'$  にシフトした。この時、 $1\text{ m}^2$  あたりの家賃は **18** (①50、②100、③750、④1500、⑤7.5万、⑥15万) 円である。

3.5. 3.4の場合、最適な消費の組合せは **19** (① ( $50\text{ m}^2$ , 7.5万個)、② ( $100\text{ m}^2$ , 7.5万個)、③ ( $0\text{ m}^2$ , 15万個)、④ ( $200\text{ m}^2$ , 0個)、⑤その他) である。

3.6. ある人の予算制約線はもともと  $C_1$  であった。ここで、家賃補助政策を実施したことで  $U_1$  が最適な効用 (=満足度) を表す無差別曲線となった。このとき、 $1\text{ m}^2$  あたりの補助金は **20** (①50、②100、③750、④1500、⑤7.5万、⑥その他) 円である。